

基本目標4、5について意見聴取

項目	意見(要旨)	当日回答	対応
<b>基本目標4 しごと・ものづくり</b>			
1 4-1-1 優良農地の確保と有効活用・農村景観の保全	<p>優良農地の確保について優良農地が有効活用されて、農村環境の保全を図りますという形になっている、目標になっているが、現時点ではこれが、無くなりつつ、崩れつつあるということが大きな問題になっている。</p> <p>土地の転用について、農業委員会からは、転用に関するガイドラインができないかどうかという意見も出ている。(それを決めるのは農業委員会だという意見もある。)</p> <p>土地の転用について、市から何かしらの指針と出していただければありがたいなというふうに感じている。</p>	<p>4-1-1優良農地の確保と有効活用法の保全、この中で特に転用の関係で、優良農地が侵食されてくるという心配に対するお話ですが、転用のガイドラインなどを農業委員会なのかどこなのかという話がありますけれども、やはりその該当、対象補助があるいはそういったところを見渡したときに、その転用が果たして、影響があるのかという効果があるのかその辺りをしっかり見極める必要があるということかと思えます。</p> <p>大変難しい判断を委員会の皆さんに委ねることになるかと思えますが、今までも十分慎重にやってきていただいておりますので、さらに慎重にやっていたくということになります。</p> <p>総合計画の中で転用のガイドラインを設けるかというところですが、細かいところまで踏み込んだ書き方はしませんが、関連する個別計画の中に書いてありますような計画等もありますので、こちらと連携をとりながら対応をとっていくということになるかなと思えます。</p>	<p>・優良農地の確保等については、「施策4-1-1」の中で方向性を示していますが、様々な課題も認識しています。</p> <p>・総合計画の中で、「転用に関するガイドライン作成」ということまで記載はできませんが、関連する個別計画がありますので、それらを踏まえ検討してまいります。</p>
2 4-1-2 暮らしを豊かにする魅力ある地域農業の創出	<p>魅力あふれる地域農業とあるが、地域力あふれる地域農業とは一体何なのだろうか、そこを明確にしていただければわかりやすいかなというふうに理解している。</p>	<p>56ページの暮らしを豊かにする魅力ある地域農業の創出、魅力あふれる農業というところが何を指すかということかと思えます。</p> <p>一言で魅力あふれるというように記載してありますが、非常に多岐に渡っていると思えます。小学生、中学生、そういった子供たちが、農業を志すようなそういう、理解されるような農業そういったようなものに代表されるのが、この魅力あふれる農業ということになるかと思えます。何をもちて魅力あふれるとなるか、非常に難しいところではありますが、駒ヶ根市の中で必要とされている一つの産業として成り立つような農業、これが実現しているということでご理解をいただきたいと思えます。</p>	<p>・「施策4-1-2」の中では、魅力ある農業を「暮らしを豊かにする～」「次世代に繋がる～」などと表現しています。</p> <p>・「魅力あふれる農業」の解釈は様々あると思えますが、所得の向上により経営が安定し、若い世代が魅力を感じることができるよう農業がひとつの要素であり、計画ではそうした方向性を示しています。</p>
3 4-1-3 新しい技術を活かしたスマート農業の推進	<p>ロボット、ICT等のスマート農業の推進ですが、農業者の意見を聞いておられますと、何のために機械を入れるのかというところを明確にした方がよい。</p>	<p>58ページになりますが、新しい技術を生かしたスマート農業の推進の中で、ロボットやICT、機械を導入する目的、それらを明らかにするということですが、ご意見いただいたとおり、その効果をあらかじめ検証しながら、必要な技術等を取り入れていくということになるかと思えます。</p>	<p>・「施策4-1-3」において、「現状と課題」として「農業従事者の高齢化がますます加速することが予想され、作業の省力化や負担軽減のため、スマート農業の普及は急務」と認識しています。</p> <p>・その先には、「農業の規模拡大や所得向上」、「後継者の確保や育成」につながっていくものと考えており、「取組の方向」の中に位置づけています。</p>

基本目標4、5について意見聴取

項目	意見(要旨)	当日回答	対応
4 4-1-3  新しい技術を活かしたスマート農業の推進	知識や経験に頼らないという農業を実現する、これは、管理栽培が高品質な農産物を生産することにつながるが、農業全体を捉えているのか、施設園芸のハウス、または、露地栽培を含めているのか、明確にする必要がある。	目指す姿の2つ目、3つ目のところであります、知識や経験に関わらず、機械管理が容易になるところであります。これは、露地なのか全体なのかハウス栽培なのかというようなことではありますが、全体的に農業というものが誰でも参入しやすくなるような、そういった大きな道筋を開いていくことを目指していことになると思います。	総合計画では、農業全体をとらえているとご理解ください。
5 4-1-4  多面的機能を発揮して暮らしを守る森林づくり	林業に関して、一番問題となっているのは、森林の荒廃が進んでいるということが今、現在の一番大きな問題だと思います。手が入らず、間伐が出来なくなっており、材木、木材として利用できるような森林が減少している。間伐をどう進めていくのか具体的に示す必要がある。	60ページの多面的機能を発揮した暮らしを守る森林作りの中の特に間伐等の関係になるかと思えます。これにつきましても、総合計画の中でどのくらいの面積を、間伐をするかは、難しい部分ではありますが、(4)の目標達成のところに森林整備面積も目標値がありますので、目標年次に25ヘクタール増やため、この中で、間伐も含めた林業のいうことになるかと思えますので、これらも一つの大目標ということになると思えます。 いただいたご意見をもう一度内部で調整いたしまして、必要に応じ加筆等修正等あればさせていただきたいと思えますのでお願いいたします。	・課題については、ご指摘のとおり認識です。そのうえで、総合計画では林業施策について、「森林整備の計画的な推進」「森林被害に対する防止対策の推進」「森林の多面的活用」の3つの方向性を示しています。 ・具体的な推進については、「関連する個別計画」に記載したような計画に基づき事業を実施していきます。
6 4-1  地域資源と新技術を活かした農林業	市民農園は存続されているか確認したい。	教育委員会所管で生涯学習の部分で、農地の転用、転作田の活用により、家計菜園的なものがブームでございまして、ほぼ満杯な状況でございます。5次総では具体的にお示ししていませんが、事業の一つとして捉えている状況です。	当日お答えしたとおり、教育委員会社会教育課所管の事業として実施しています。(生涯学習の一環)
7 4-2  にぎわいと活力ある商工業	賑わいと活力ある商工業の振興についてですが、工業につきましては、これからカーボンニュートラル、あるいは、半導体の問題、関連して自動車の電動化等々が、これから大きく進んでいくかと思えます。 行政やテクノネット駒ヶ根を中心に、これからどのように駒ヶ根の工業の部分を変えていくのかというのは、大変なことだと思います。 特に駒ヶ根の工業の占める割合というのは大きいので、雇用、税収、工業出荷額等々が、非常に大きな部分を占めているので、工業振興に力を入れてもらいたいと思えます。 企業誘致の取り組みについても、将来に向けての基盤を作っていただきたいと思えます。 また、商業につきましては、このコロナで街なかにおいて格差が出ているという感じがしております。 こまPayでは、大型店を含め人気のあるところにはお客様が行く、大型店以外は、なかなか利用されないと状況である。商工会議所でも、一生懸命力を入れてその部分をみんなで発展していくところをやりたいが、市の方も、ぜひ商工業の部分の賑わいを高めるような事業をやってもらいたいと思えます。	工業は、製品出荷額1,500億、多いときは1,700億、商業・卸小売業は、600～700、観光が50億、圧倒的に工業が多い状況である。今後はさらにどのように振興していくかが課題であると認識している。 企業誘致も重要であるが、既存の企業をどのように振興していくのか。商業については、こまPayで事業者間での格差が出ているところは承知している。これまでの取り組みを検証し、今後は均衡ある発展をするための方策を考えていきたい。	・商工業振興は、【施策4-1-1】～【施策4-1-4】に示した方向性により進めていきます。 ・企業誘致も重要ですが、既存企業の振興も課題であり、商工会議所とも連携して均衡ある発展のための方策を検討していきます。

基本目標4、5について意見聴取

項目	意見(要旨)	当日回答	対応
8 4-2 にぎわいと活力ある商工業	コンパクトシティについて市の考え方をご教示いただきたい。	コンパクトシティについては、施策の中で、64ページ65ページに、その人が集まる街の魅力作り、65ページの一番下、関連する計画の中に立地適正化計画があり、都市計画の分野において、様々な都市機能や生活機能をなるべく集約させて維持していこうという考えです。 中心市街地、商業を含めて、機能が減っていってしまうと、市全体にとってマイナスになるという認識でいますので、できるだけコンパクトな形で集約して、公共交通といったもので繋いでいく考えを含め、立地適正化計画を推進しています。	・人口減少や少子高齢化の進展に伴う課題を踏まえ、将来にわたって持続可能な都市構造として、集約型都市構造(コンパクトシティ)を目指す「立地適正化計画」をH30年度に策定しました。 ・市街地の人口密度と都市機能を維持し、公共交通との連携により長期的に持続可能な都市経営を目指すものです。(コンパクトシティ・プラス・ネットワーク)
9 4-2 にぎわいと活力ある商工業	街なかが少しずつ、変わりつつあります。 特に青年海外協力協会の施設である、ごっちゃウェルネス、これからこういったものを中心に発展していこうというふうに思っています。これを機に、市として、協力隊、協力協会との連携についてお考えがあるか。	中心市街地の再構築に関することということで、35P、生涯活躍のまちという視点、幅を広げて対応していく。重点プロジェクト、施策の方向で、人が集える施設、大使村構想の推進、JICAのみなさんとの連携、これらを、街なかで連結させていきたいと考えている。 また、ウェルネス拠点において、駒ヶ根健康ステーション事業の取り扱いを直営から、ゴッチャへ機能移転し、集積を図っている。	生涯活躍のまちづくりは、青年海外協力協会を地域再生推進法人に指定し、JICAはもちろん他の事業者や団体含め官民連携で進めており、【重点プロジェクト3】に位置づけ、まちなか再構築につなげていく考えです。
10 4-2 にぎわいと活力ある商工業	つれてってカード、キャッシュレス機能、利用されている感じがしない。浸透していないのではないか。	カードを持っている方は大勢いるが、使い勝手が悪いことは認識している。次の地域通貨として、利用促進に向けた研究したいと考えている。また、利用店舗、利用者双方のメリットが感じられるよう、仕組みを作りたい。	課題として認識しており、【施策4-2-1】において、「次世代カード」や「地域通貨」の導入を進めていきたいと考えています。
11 竜東振興プロジェクト	竜東振興プロジェクト、竜東地域の開発委員会で取り組んでいるが、市としてどのように進めていくのか。	リニア発生土を活用した、大規模な圃場整備の中で、一部の非農用地を、農業振興施設、直売所、農業の加工場等を移転新築するような形で考えております。 なお、直売場は行政ではなくて、地元の皆さんが自ら運営していただくこととなります。 非常に、景色もいいところですので、市の拠点になるという視点もございます。 また、農業振興を進める中で、地域の皆さんにも、集まっただけのような交流拠点も設置していきたいということから、市が主体で進めていく形で、地元と現在、調整をしているところであります。 計画の方が正式に決まった段階で、市民の皆さんにも公表していきたいというふうには考えております。	当日お答えしたとおり、リニア発生土を活用した大規模圃場整備と、一部生み出される非農用地に農業振興施設、直売所、加工所等の移転新築等を考えています。市の拠点、地域の交流拠点となるよう、地元と調整しながら進めてまいります。

基本目標4、5について意見聴取

項目	意見 (要旨)	当日回答	対応
12 4-2 にぎわいと活力ある商業	新成人のみなさんから、この地域には職がないと言われた。企業誘致、工業団地造成をどのように考えているのか。	<p>企業誘致の関係ですが、工業団地につきましては下平工業団地に若干土地が残っている程度で、ほとんどの工業団地については、埋まっている状況となっております。</p> <p>ご指摘されたとおり、工業団地造成工事、工場を誘致するためにあらかじめ造成しておくところが、非常に大きな課題であるというふうには認識はしております。</p> <p>工業団地の造成については、引き続き検討したいと考えております。</p> <p>職がなかなか無い状況については、当市に限らず、上伊那でも共通認識である。</p> <p>特に、文系女子の就職先が無い。文系女子の働き先について本腰を入れてやっていきたい。それに結び付く誘致が課題となってくる。</p> <p>素々案の32ページ、33ページ、重点プロジェクトの1番目に、少子化対策の中で、こちらの33ページの計画4番、働く場の確保ということで、女性の働く場所づくり、こういったところで、重点プロジェクトとして抑えていく。</p>	<p>・【施策4-2-3】【施策4-2-4】の中で、企業誘致、雇用の創出等を推進していきます。</p> <p>・工業団地造成につきましては、大きな課題であり、引き続き検討してまいります。</p> <p>若い世代、特に若い女性の働く場の確保についても、ご指摘のとおり大きな課題であり、【重点プロジェクト1】にも位置づけ取り組んでいきます。</p>
基本目標5 安心・快適なまちづくり			
13 5-2-4 地域公共交通の確保	<p>公共交通については、将来的にはおそらく自動運転等のエンジニアリングが発達してくると思いますので、近い将来どうなるかという話がありますが、この地域においては、ほとんどの交通手段が自家用車になってしまっている現状がありますので、別の代替手段に変える施策というのは、早々に何かしら策を持ってしかるべきではないかと思っています。</p> <p>既に住んでいる方も当然ですが、移住に繋がる、一つの要素にもなるというふうに思いますので、産業界と連携してぜひ地域の方から、何かしら新しい試み、具体策を盛り込んで、いただきたいと思っています。</p>	<p>資料84ページが地域公共交通の確保の関係となっております。</p> <p>新しい公共交通と言っても、非常に広いわけでありまして一般的には、Maasのような言い方で括られておりますが、現在駒タクのシステムの見直しを行っており、3月まで実証実験を行ってその成果を来年度以降、実際に落とし込みができるかどうかということで調整を進めています。</p> <p>また(3)のMaaSですとか、AI、自動運転、キャッシュレスなどを取り組みたいということですが、昨年11月にグリスロの実証実験を菅の台の方でさせていただいております。これはどちらかというと市民の皆さんの足というよりは、観光で来られた方の2次交通の先の移動手段として考えている。</p> <p>Maasを中心に、また、グリスロ実証実験したが、関係する部署でつなげていきたいと考えている。</p>	<p>・公共交通の確保については、【施策5-2-4】に記載しています。この中で、取組の方向(3)として、新技術などを取り込んで新たな交通システムの研究を進めることとしており、すでに実証実験なども始めています。</p> <p>・これらを進めていくためには、ご指摘のとおり産業界との連携は欠かせないと考えています。</p>
14 5-3-2 地域防災力の強化	駒ヶ根には地域防災を担う一つとして、日赤奉仕団の位置づけが弱いのでは、消防団はあるが、地域防災力の強化に位置づけできないか。日石奉仕団のやる気にもつながる。	重要な役割を担っているという認識はあるが、同じような活動をしている団体も多数いるので、5次総の中に、具体的に落とし込めるかどうか、検討していきたい。	ご意見を踏まえ、「5-3-2 地域防災力の強化」の取組の方向の中で、赤十字奉仕団などの団体との連携について追記しました(P149)。 <u>(パブコメ実施前に修正済み)</u>

基本目標4、5について意見聴取

項目	意見(要旨)	当日回答	対応
15 5-1-3 環境保全の推進	<p>リニアが開通、際には中長期的な発想が必要と思います。</p> <p>東京に住んでいる友人たちも、飯田まで30分来られれば、駒ヶ根であと30分1時間圏内であればそんなに自然が近くにあるということで、毎週でも来たいというような声も聞いています。</p> <p>そういった中で、駒ヶ根がこういった町の特徴、宣伝していくか、ヨーロッパの中のスイスが観光業で成功している理由は、自然景観です。そのためには、自然景観、環境保全という視点っていうのは一番大きな視点になるのかなと、移住者としては思います。</p> <p>それには、不法投棄やポイ捨て、イギリスのリバーキーパーのような、マンパワー、ボランティアとして、住民意識を高めることが必要だと思います。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご指摘のとおり、駒ヶ根市の自然環境、自然景観は、P12【まちづくりの視点】(3)でお示ししたとおり、守るべき価値であるという基本的な認識です。</li> <li>・こうした共通認識で、【施策5-1-3】環境保全、【施策5-2-6】景観保全の取組などを進めていきます。</li> </ul>
16 5-1 カーボンニュートラルに向けた取組	<p>駒ヶ根市の魅力は自然であると思います。リニア開通により、より身近な存在になる。</p> <p>自然を町全体で守る姿勢をみせる。また、少なくとも、観光客等が触れる交通機関については早急に自然環境を配慮したものへ代替えていく必要がある。</p>	<p>資料1の40ページ、カーボンニュートラルに関するその公共交通機関の考え方を整理してあります。</p> <p>例えば(2)の下の方の施策の方向性の③で、例えば公用車この電動車の切替えというようなものがあります。</p> <p>それから先ほど少し触れましたグリーンスローモビリティ、こういったものの導入等で対応を図ってきたいというふうを考えます。</p> <p>また、諸外国のこの参考事例等、お聞かせいただき、政策の中で取り組んでいきたいと思っています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【重点プロジェクト6】カーボンニュートラル推進プロジェクトをはじめ、【政策2-1】や【施策5-2-4】地域公共交通の分野など、横断的に取り組んでいきます。</li> <li>・グリーンスローモビリティの導入実証は、今後も引き続き取り組んでいく考えです。</li> </ul>
17 5-1 カーボンニュートラルに向けた取組	<p>カーボンニュートラルですが、自動車以前に、家庭でもCO2を出している。何年前に、市のエコ診断を専門家によるチェックを受けた。普段の生活から、カーボンニュートラルを考えられると良いのではないか。</p>	<p>身近なところからそういったことを考え、感じていただけてることは大事なことだと思います。診断基準も含めまして、身近なところで考えられるような機会を考えていきたいと思っています。</p>	<p>【施策5-1-1】において地球温暖化防止活動の推進を掲げています。この中で、ひとりひとりが身近な活動に取り組むことは大変重要ですので、具体的な事業を進める中で検討していきます。</p>
<b>基本目標4・5以外</b>			
18 1-2 文化・スポーツに親しめるまちづくり	<p>文化芸術振興懇話会を平成29年の10月から令和3年に1月までの間に文化芸術振興指針の計画を立てる懇話会を立ち上げております。これは、駒ヶ根らしい文化芸術振興のため、基本目標を策定するということが目的です。</p> <p>文化芸術の範囲は非常に広いですが、国のガイドラインに沿いまして、文化芸術基本法を踏まえ、芸術、メディア芸術、伝統芸能、それから芸能、今日的な芸能について、いろいろ策定したものを基に、駒ヶ根市文化芸術振興指針を決定しております。</p>	<p>教育次長補足説明</p>	<p>文化芸術の振興については、5次総の個別計画である文化芸術振興指針との整合を図りながら推進していきます。</p>
19 3-1 観光地域づくり	<p>観光施策については、観光協会を中心に考えています。</p> <p>全体の中で人作りというのがありますけど、観光協会をこれから推進するにあたって、まずは人がそれぞれ力を発揮する、いわゆるマンパワーをどのように作っていくのが一番のポイントになると思っています。人がどういう活躍をできるか、環境作りこそが、この地域で一番の原点になると思います。</p> <p>もう一つは業種間での横串を刺すことが必要だと思います。観光分野から、福祉、教育関係に繋げていくような施策を5次総の中で考えていただきたい。</p> <p>もう一つは、リニア開通です。地域にとっては、非常に画期的なことだと思っています。アフターコロナにおいてグローバルスタンダード、インバウンドの受け皿を作っていかなければならない。</p> <p>多くの人に駒ヶ根市来ってもらうような情報発信を、その仕組みが必要だと思います。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光施策については、「施策3-1-1」「施策3-1-2」及び「重点プロジェクト5」で記載しています。</li> <li>・施策の取組は、観光関係者はもとより、市民や多様な関係者と協働・連携して進めていくこととしています。</li> <li>・インバウンドについては、新型コロナの感染状況等を見極め、段階的に推進していくこととしています。</li> <li>・情報発信も重要な課題ととらえており、SNSなどの活用により効果的な魅力発信をしていくこととしています。</li> </ul>

基本目標4、5について意見聴取

項目	意見(要旨)	当日回答	対応
20 全般的事項	<p>将来を担う次世代の農業者が減少し、集落、農村が消えていくという懸念がある。地域を活性化の一方で、全体で見ると、マイナスの方が大きいのではないかなという感じがします。</p> <p>それらを見据えた駒ヶ根市のまち作りを、計画の中に入れていただければ、また今後の指針になっているかと思っております。</p>	<p>64ページ65ページ、先ほどの65ページの一番下にあります関連する個別計画の中の立地適正化計画という中で、居住誘導したいところ、工業なり商業などを誘致したいところ色分けをしてありますので、まずはこれをご理解いただいて、できればそういったところに沿っていただきたいということでございます。</p> <p>具体的にはこの立地適正化計画に沿って外から対象エリアに引っ越してきた場合には、固定資産税相当額等を補助するというような制度を今やっておりますので、そういったところを膨らませるなど、今後考えていきたいと思っております。</p>	<p>・担い手の減少や集落の消滅といった、人口減少、少子高齢化に起因するさまざまな課題は、【時代の潮流と課題認識】でも記したように、総合計画全体に関わる大きな課題と考えています。</p> <p>・そうした中、基本構想の中にある土地利用構想をはじめ、立地適正化計画、都市計画マスタープラン、農業振興地域整備計画など土地利用に関する個別計画などにより、ご指摘いただいたとおり、将来を見据えたまちづくりが必要と考えています。</p>
21 全般的事項	<p>立地適正化計画は大事なことだと思っている。</p> <p>移住者ですが、駒ヶ根に移住した理由は、昔はとても不便だったから。不便さがこれからはとても大事な時代になるだろうと思えます。</p> <p>土地の利用については、あるものをどのように残していくのか、どのような開発をしていくのか。フランス、パリを参考に、基本はやはり、自分たちが楽しむ他の社会作りだと思います。</p> <p>人が住む文化とは何なのか、理念やビジョンが大事。プロモーションも必要である。開発をしてよい場所、してはいけない場所を明確にする必要があると思えます。</p> <p>2つのアルプスが映える町、駒ヶ根にしかない財産である。核になるもの、将来像など、具現化することで、持続可能な社会を目指していくことが必要である。</p>		<p>・土地利用については、基本構想の中にある土地利用構想や関連する個別計画のもとに進めていきます。</p> <p>・駒ヶ根にしかない財産を核にとのご指摘は大変重要と考えます。P12【まちづくりの視点】(3)では、「変わらない物の価値を守る」という基本的な考え方を示しています。</p> <p>・環境や景観、観光の分野を中心に、「アルプスがふたつ映えるまち」駒ヶ根を守り活かす取組を進めていきます。</p>
22 3 ひとの流れづくり	<p>人の流れづくりで、文系女性という言い方が正しいかどうかはありますが、いわゆる事務職的なものが無く、そこに対してのアプローチとして企業を誘致するのはかなりハードルが高くなると思いますので、これまで以上にそれを進めるというよりは、いかに団体、会社をこちらに誘致するのではなく、仕事だけ持って来るという考え方もあります。</p> <p>5年間ぐらいテレワークに携わってきて感じることで、近い将来AIに全て取られるだろうというふうに、思っていましたが、実際そこまでは行ってない。</p> <p>これはおそらく人間が判断しなければいけないことがまだまだ必要で、AIなどによる置き換えがそれほど早くは進まないということは、この間に、地域でそういった人材を育てることができたら、都市部から、仕事出してくれるところが増えてくるのではないかと思います。</p> <p>企業誘致ではなく、仕事をこの地域に持って来られればいいわけですから、そういう型を模索して行き、行政と産業界が連携して人材育成等も含めた策を講じられないかという思いが強いです。</p>	<p>施策シート中の66ページ(3)の今後の方向性の中の二つ目、次世代産業の積極的な誘致ということで、そういったところも視野に入れながら、進めていきたいと思えます。</p> <p>仕組み作りを考えていく必要があるのかなというふう感じております。</p> <p>その中で、行政の役割として、こういった仕組み作りを梶田さん含め、他の皆さんと一緒に情報共有する中で今後検討していきたいというふうに思っていますので、5次総にどのように落とし込むかについては、検討させていただきたいと思えますけども、引き続きまた協力の方をよろしくお願いいたします。</p>	<p>・【施策4-2-3】の方向性で、「次世代産業の積極的な誘致」を記していますが、ご指摘のような「仕事だけを持って来る」考え方も視野に入れながら取組を進めていきます。</p> <p>・また、【施策4-2-4】で産業における人材育成、【施策3-2-2】で新たな働き方の受け皿づくりを掲げています。それら取組を進めていく中で、新しい視点を含めさまざまなご意見をいただきたいと考えています。</p>